読み方のコツ2　現代のことばの記述・鑑賞文・脱文挿入・返り点

現代のことばで書く記述　「本文の内容から読み取って、現代のことばで○字以上、○字以内で書きなさい。」本文に線を引き、注を使って現代語に直す。古語をそのまま書かない。主語が省かれていれば補う。最後に、まとめ文につないで読む。

【鑑賞文の一部】　本文について書かれた文章の空欄を、本文から抜き出す。令和○年度に出た形である。空欄の前後のことばが、本文のどの部分の言いかえかを探す。抜き出すときは、本文の表記のまま写す。

古文の脱文挿入　入れる一文の内容を現代語で考える。「うれしい」「困った」などの気持ちなら、話の流れのどこに合うかを見る。

返り点　入試では、書き下し文の読み方になる返り点を選ぶ問いが出た。**レ点**は、すぐ下の字から一字上へ返る。**一・二点**は、二字以上はなれた字へ返る。上から読み、返り点のある字は飛ばして、読む順番を指でたどる。「於」など、書き下し文で読まない字もある。

例　歳月不待人（レレ）　→　読む順は　歳月・人・待・不　→　歳月人を待たず

問一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

法然上人云はく、「一丈（約三メートル）の堀を越えむと思はん人は、一丈五尺（約四・五メートル）を越えんと励むべきなり。往生（極楽に生まれること）を期せむ人は、決定の信（必ずそうなると固く信じる心）をとりて、しかもあひ励むべきなり」。（『一言芳談抄』による）

法然上人は、一丈の堀を越えようと思う人はどうするべきだと述べているか。［　　］に入る内容を、現代のことばで十字以上、十五字以内で書きなさい。

一丈の堀を越えようと思う人は、［　　］べきである。

問二　「歳月人を待たず」という読み方になるように返り点を付けたものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　歳月不待人（二）　イ　歳月不待人（レ）　ウ　歳月不待人（レレ）　エ　歳月不待人（レ）

解答（答えと短い解き方）

漢文の返り点・書き下し 入試① 返り点と書き下し文

コツ2の確かめ

問一　（例）一丈五尺を越えようと努力する（十四字）

「越えん」の「ん」は「～よう」、「励む」は「努力する」。採点の要素：①一丈五尺　②越えようと努力する。

問二　ウ

読む順は「歳・月・人・待・不」。一字上に返るので「待」と「不」にレ点。

くわしい解き方は創心館出版の攻略テキスト（別冊解答）に載っています。